

「源氏物語」研究・教育の将来構想

## 「源氏物語」サイバーの世界へ

2002 年 10 月 12 日

犬塚潤一郎

## 1. 【現状】 インターネット世界における『源氏物語』:

インターネットで、『源氏物語』あるいは“The Tale of Genji”を調べると、容易には全体を把握できないほどの数多くの情報が見つかる。それらには、文学としての源氏物語の研究や鑑賞だけでなく、源氏物語に着想を得た小説や絵画、映像作品、あるいはゲームやアニメなど、さまざまなバリエーションがある。さらに、それらが互いに影響しあっている状況もまたみてとれる。

ネット世界の源氏物語は、原典に基づく研究、原典に着想を得た表現世界が、多重に重なり合う、『源氏物語』の世界を私たちの目の前に見せてくれる。

- 研究世界と表現世界
- 多重の相互関係

## 2. 【文化】『源氏物語』の歴史的な重層 意味連関:

現在の私たちの目の前に繰り広げられている源氏物語世界は、平板に広がりのものでなく、歴史的、文化的な積み重ねによって生まれてきたものでもある。

古代日本の文化を基盤として、源氏物語が属する中古の世界。そこには、中国文化の影響が加わる。また源氏物語は、その後の時代を経る過程で、中世の、そして近世の文芸作品への影響を加えながら受け継がれる。そして、私たちの現代につながる近代では、西欧文化のものの考え方や習慣が日本社会に深く浸透し、おのずと源氏物語の人物像や閑静の解釈にも影響を加えてゆく。

源氏物語がいったいなんであるのか、またその本当の価値は、とあらためて見直してみると、私たちの現代をつくりあげているさまざまな文化要素を比較検討しながら、少しずつ源氏の真の姿へと遡ってゆく努力も必要であることがわかる。

『源氏物語』を読むことは、現代に至る根底をなす、日本文化の本質を探る道であるとも言える。

『源氏物語』の文化的・歴史的構造

もののあわれ、いろごのみの道徳の理解: 本居宣長、下田歌子のアプローチ

『源氏全講会』の流れ: 三矢重松、折口信夫、池田弥三郎、岡野弘彦

## 3. 【研究・教育】 総合的な仕組みを通じて、本質価値と社会実践を学ぶ:

そのようにみると、源氏物語を学ぶことは、私たちの日常社会と、その根底となっている日本文化の本質価値との関係を探ることであるといえる。また、そのことを通じて、日常世界の現実をより豊かにすることへ取り組むことでもある。

『源氏物語』を通じて、日常から本質への探求、そして本質から日常への実践の道を進むことができるのではないだろうか。

実践源氏の伝統

古典を中心とした作品世界を通して、本質価値と社会実践を学ぶ

ネット社会における新しい大学と教師の役割 学習者の主体性の増大とメンターとしての役割

## 4. 【取り組み】 メディア技術の応用:

源氏について調べる、源氏の価値と専門研究を結びつける、自分の理解や解釈を作品として表現する。今日の社会環境では、具体的な研究・学習のステージが、メディアにかかわっている。

デジタル・ネットワークメディアの活用を、研究・教育の仕組みに応用することに取り組む。

知識・情報の検索整理

テーマ・主張の論理的展開

豊かな表現・プレゼンテーション

『源氏全講会』講義の活用 (國學院大学院友会市民公開講座 / 映像制作 実践女子大学生活文化学科)